

那珂川町図書館

オススメの1冊

『牧水の恋』 俵 万智／著 文藝春秋 【911.1 タワ】

「恋は、いつ始まるのだろうか。」本書はこの一文から始まります。酒と旅を愛した歌人・若山牧水を、同じく歌人である俵万智さんが「恋」の側面から掘り下げていきます。

例えば、牧水の「山ざくら花のつぼみの花となる間の^{あひ}生命^{いのち}の恋もするかな」という歌があります。最初に発表したときは「恋もするかな」でした。しかし、後にまとめられた歌集では「恋もせしかな」と、過去形に変更されているそうです。これは、今まさに恋をしている状態から、気持ちが変化し、恋が過去のものとなったことの表れではないかと著者は言います。他にも多くの歌に解釈をつけていますが、文献にあたりながら当時の状況と牧水の心の揺れを考察しており、さすが歌人、どれも説得力があります。

高校生の時、牧水の歌に出会ったという著者。今、改めて牧水の歌を読み込んでみて「デビューしたころの私、ものすごく牧水の影響受けてる！」ということに気付いたのだそうです。この本では、実際に著者と牧水の歌のいくつかを比較しながら味わうこともできます。

読み終えればきっと、若山牧水を身近な一人の人間として感じられることでしょう。今も昔も変わらない、恋をした時の様々な感情を、あなたも牧水の歌を通して追体験してみませんか。

『その情報、本当ですか？』 塚田 祐之／著 岩波書店 YA 【070 ツカ】

テレビやインターネット、新聞、SNSなど、身の回りに情報が溢れている現在。中にはフェイクニュースも紛れており、正しい情報かどうかを一人ひとりが判断しなくてはなりません。しかしアメリカのある調査によると、10代の若者の多くが、インターネット上の正しい情報とフェイクニュースを見分けられていないことがわかりました。

一方で、情報を発信する側のメディアはどのような工夫をしているのでしょうか。例えば事件や災害などの緊急事態では、飛び交う情報の中からいち早く、正しく、なおかつ優先順位の高い情報を選んで視聴者に伝えることが必要です。著者は長年、NHKの報道番組ディレクターとして報道に携わってきました。この本では、報道現場で著者が経験した具体例を挙げ、現場が何を大切に情報発信してきたのかを紹介しています。

情報源が何か確認すること、必ず複数の情報を比較すること、テレビやインターネットなどの特性を理解することなど、現代人に必要な知識を再確認できる一冊です。

那珂川市図書館司書（ひ）